

(第3種郵便物認可)



新たなベンチャー企業の成長を期待し手を取り合う九大、福岡市などの関係者=福岡市の九州大伊都キャンパス

西 日 本 新聞 (夕刊)

## 九大発 有機ELベンチャー

九州大最先端有機光エレクトロニクス研究センター長の安達千波矢教授は25日、スマートフォンの画面などに活用される有機ELの開発に取り組むベンチャー企業「Kyuulux（キューラックス）」を設立したと発表した。今後、パネルメーカーなどと連携して、2018年までの市場参入を目指す。

有機ELは、有機化合物に電流

を流して発光する素材。携帯電話

やテレビの画面に使われており、従来の液晶に比べ画質がより鮮明で、軽くて薄く、折り曲げることもできる。ただ、イリジウムなどのレアメタル（希少金属）が必要とされるなど、生産コストの高さがネックになっている。

安達教授の研究チームはレアメタルを使わずに、炭素や水素などの有機化合物を素材に活用。電気を光に変える発光効率を高め、従来の有機ELに比べ、製造コスト

を10分の1程度に抑えられる新素材の開発に成功している。

こうした研究成果などを基に技術開発を担う会社を設立。投資会社などから、大学発ベンチャーとしては九州最大規模の計15億円を集めた。安達教授は「九大の技術を実用化につなげたい」として、有機ELに関する50超の特許を同社に譲渡。九大は株主になる。

有機ELをめぐっては現在、韓国企業が大きなシェアを占めている。一方で、米アップルが18年をめどに「iPhone（アイフォーン）」の画面に有機ELを採用するとみられ、市場の成長も見込まれている。

福岡市西区の市産学連携交流センターに拠点を構えた同社に対し、課税の免除など支援する福岡市の高島宗一郎市長は「九大の最先端の研究成果をビジネス、商品に変化させ、大きく成長してほしい」と期待を寄せた。同社は当面、社員10人でスタートし今後、新たに3人程度の雇用も検討しているという。

（古川幸太郎）

## 15億円の資金調達